

どう学ぶ?

楽器や音響などの専門知識と実践的な技術を身につける

国立音楽院のドラムカスタマイザー科で学ぶ。調整や、ドラムを改造・製作する技術のほか、音響学やパーカッションの知識、ドラム演奏の基本など幅広く習得。学内で開催されるライブや学内レコーディングスタジオでの実習もある。

どう稼ぐ?

楽器店への就職や、フリーで活動する道も

楽器店に就職するほか、レコーディングスタジオやライブコンサートで修業を積んでフリーになる道も。実力が認められればミュージシャンから指名されるケースも。また、調整やメンテナンスの技術を併せ持つドラマーになって活躍する人もいる。

ニュース & TOPICS

ドラムや打楽器がいい音を出すためには、調整（チューニング）やメンテナンスが必要。そうした技術を持つ専門家がドラムテックだ。国立音楽院では養成コースを開講。修了すると資格が得られる。第一線で活躍する講師から学べるとあって、コース受講者のなかには社会人出身者も少なくない。夜間部もあるので、働きながら学ぶことも可能。

国立音楽院認定 ドラムテック

ドラムは調整によって音が大きく変わる楽器。基礎を身につけて資格を取得すれば音楽業界で活躍するための第一歩に

プロのドラマー志望から裏方の仕事に惹かれ、ドラムテックの世界へ



「ドラムは使っているうちにネジがゆるんでいきます。ネジがゆるむと、音量がおちたりして演奏にも影響がでくるので、定期的なメンテナンスが必要です」と、村上さん。

ドラムのチューニングを行う職業がある。そう聞いて驚く人は多いだろう。20年前、当時26歳の村上さんも驚き、心に火がついた。もとは、プロのドラマー志望。20代前半にスタジオミュージシャンのアシスタントとして修業をするが挫折し、水道工事の仕事に転職していたのだ。「僕はアシスタント時代にドラムの調整やメンテナンスもやっていて、細かい作業は得意だし、ドラムにふれているのが楽しかった。それを仕

ドラムがいい音を出し、演奏が盛り上がったときのやりがいは格別

「ドラムは筒にヘッドを張って、叩けば鳴るといって、シンプルな楽器です。それだけによい音をつくるには緻密な調整が必要になります」。ヘッドは強く張ると高い音が、ゆるめに張ると低い音が出るというのが基本だが、ミュージシャンの希望や楽曲などに合わせていかに調整するかが腕のみせどころ。ライブツアーに同行し、全国各地を回ることも。「ツアーは拘束時間の長い肉体労働ですが、いい音が出ることでプレイヤーが気分よく演奏できてコンサートが盛り上がる。そんなときのやりがいは格別なものがあります」。村上さんはまた、国立音楽院の講

事にできるなら頑張ろうと思いましたが、表舞台で演奏はしないけど音楽づくりに関わりたい、裏方の仕事は自分に向くのかも、と気づいたんです。こうしてドラムテックの世界に入った村上さん。当時はこの仕事で働く人は少なく、先駆者の存在に、現在、多くのミュージシャンのレコーディングやコンサートで活躍中だ。



村上敦宏さん(46歳)

第一線で活躍中のドラムテクニシャン。ドラムの調整から修理、改造まで手がけ、多くのミュージシャンをサポート。国立音楽院の講師もつとめる。

「いい音」を探索でき、音楽を創り上げる喜びのある仕事。努力と粘り強さがあれば長く活躍していけると思います。

師として、後進の育成にも取り組む。「僕がめざした当時、学べる学校はなく、経験を積みながら技術を身につけました。駆け出しの頃はノーギャラで仕事を引き受け、自分売り込むことから始めました。でも今は学校があり、体系的に基礎が身につく。食欲に学んでほしいです」才能や運が必要とされるプレイヤーと違い、裏方のドラムテックは努力と粘り強さがあれば長く活躍できるという。そうやって約20年間続けてきた人、それが村上さんなのだ。

主催団体

国立音楽院

受験資格

国立音楽院の所定のコースで学び、カリキュラムを修了すると資格を取得できる

目安となる取得期間

2年